

「計画」

皇子山中学校

令和8年度皇子山中学校我が校の学ぶ力向上策

【**県目標**】 第三期学ぶ力向上滋賀プラン
 夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学ぶ力を高める。
 【**令和8年度取組の重点**】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ
 ○発達の段階を踏まえた言語活動の充実
 ○1人1台端末等の効果的な活用
 ○自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【**市町の目標**】
 ○一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育を実践する

【**学校の目標**】
 ○「皇子山中学校・校区」を愛し、校区の次代を担う生徒の育成

【**現状と課題**】
 ○視点1 学習者エージェンシーに課題があり、困難な課題を解決しようとする態度や、知識を活用することに課題がある。
 (1) すべての授業で、協働的に学ぶ課題をしかけ、「学びたい」気持ちをはぐくむ。
 (2) ICT機器を活用し、生徒自ら分からないことを調べ、調べたことをまとめ、表現する学習活動を展開する。
 ○視点2 互いの違うところを理解し、尊重することができる。他者とつながる際に、適切な距離を理解できない点が課題である。
 ○視点3 すべての教職員が、校内研究を通して「目指す子どもの姿」を共有することができる。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」**肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【**視点1**】 子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①すべての授業で、協働的に学ぶ課題をしかけ、「学びたい」気持ちをはぐくむ。 ②ICT機器を活用し、生徒自ら分からないことを調べ、調べたことをまとめ、表現する学習活動を積極的に展開する。	①全国学学調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」肯定的回答が80%以上 ①学校評価アンケート(生徒)：「授業にしっかり取り組んでいる。」評価点0.85以上 ②全国学学調査「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」肯定的回答が80%以上

【**視点2**】 学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①毎授業において4人グループでの学習に取り組み、分からないことがあれば尋ね、尋ねられたら丁寧に対応する、共感的人間関係を育む。 ②授業において、手本となるべき学び方や、他者と協働して学んでいる様子を教師が見取り、授業の中で評価する(ほめる)ことで、自己存在感を育む。	①全国学学調査「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」肯定的回答80%以上 ①学校評価アンケート(生徒)「生徒同士お互いを認め合って生活できていると思う。」評価点0.85以上 ②全国学学調査「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」肯定的回答80%以上

【**視点3**】 協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①校内研究会の度に、「目指す子どもの姿」を共有し、今の本校生徒の状況と比較し、各自の授業改善の手立てを見直す。 ②学校運営協議会を中心にした地域学校協働活動を推進し、子どもの居場所づくりをすすめる。	①学校評価アンケート(教師)「主体的・対話的で深い学びのある授業を進めている。」0.80以上 ②学校評価アンケート(地域)「地域の教育力を学校教育に生かすことができている」評価点0.80以上

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・職員会議において学校教育目標・学校経営方針に基づいて、学ぶ力向上策について説明し、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について共通認識し、実践を進める。
- ・年間3回の校内研究会、「宝探しデイ」で目指す子どもの姿と本校の取組事項を確認し、毎時間の授業改善をすすめる。
- ・職員会議において、全国学力・学習状況調査等の結果や、11月～12月の学校評価における数値や意見等を共有し、改善策をまとめる。それぞれの取組事項に対する評価結果を学校だよりやホームページ等で保護者や地域に発信する。